

學小
新撰修身書

安原時太郎 閱
平井義直 編纂

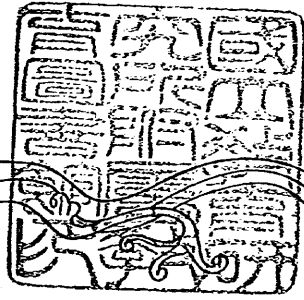
一

271
2
13

K110.1
174a
1

K110.1

174a



切
始

二品久近宮朝彦親王御題辭



小學新編

此卷之初等

為之

第



小學新撰脩身書

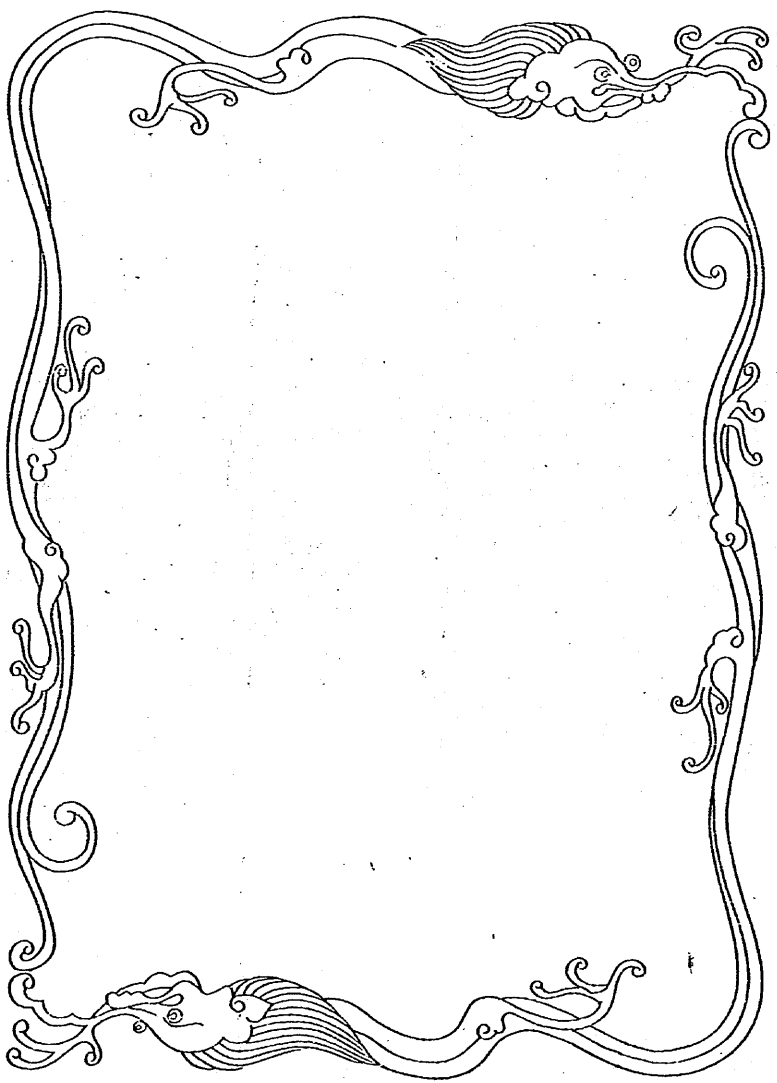
此卷ハ初等科第一年後期生徒ニ授クル
爲ニシテ簡易ナル古今ノ格言ヲ纂メ孝
弟忠信ノ道ヲ知ラシムルノ書ナリ



二品久迩宮朝彦親王御題辭

二品久迹官朝彦親王御題辭





學新撰脩身書

例言

一 斯編ハ文部省脩身書編纂心得ニ基ツキ善行ヲ
省キ洋語ヲ除キ偏ニ本邦漢土聖哲ノ金言ヲ鈔
録ス而シテ專ラ小學兒童ノ暗記シテ必ス之ヲ
身ニ行ハントヲ要スルカ故ニ首篇ハ其解シ易
フシテ兒童ニ切要ナル語ヲ拔萃シ漸次高尚ニ
及フ是レ高キニ登ル必ス卑キヨリスルノ意ナリ
一 編中列記スル所ノ章句ハ私意以テ一字ヲ更メ
ス且ツ各其出所ヲ明記シ一ニハ以テ兒童成長
ノ後其原書ニ遡リ考窮索搜ノ便ニ供スルナリ

一 列記スル所ノ章句年代ヲ逐ハサルモノハ予カ
 平居隨筆ノ鈔録ニ係ルモノ多キニ因ル今改メ
 正サス而シテ編中往々畫ヲ插ムハ兒童ヲシテ
 是ニ因テ早ク其義理ヲ感覺セシムルノ一助ト
 ナスニアリ

一 予謏劣ヲ揆ラス今此書ヲ編ス恐ラクハ鹵莽ノ
 ノ誚ヲ免カレス是レ固ト小學兒童脩身ノ一端
 ニ供スルモノニシテ原ヨリ大方ニ示スニアラ
 ス觀者幸ニ焉ヲ諒セヨ

編者識

小學新撰脩身書卷一

安原時太郎閱

平井義直編纂

第一章

○ 善く父母につか
 ふるを 孝といふ

丘濬
學的

○よく兄長ふつあ

ふるを 弟といふ 同上

○已をつくすこれ

を 忠といふ 同上

○實をもつてさる

ことを 信といふ 同上

○已を推して人に

およほすを 恕とあ

す 同上

○誠ハ 天の道あり

これを 誠にさるは

人のみちあり 中庸

○愛とは人をあま
まむをいふ人を小
くみうとんせざる
なり 初學訓

○敬とハ たつとび
あがめる ところ阿

つと 忽せに さざ
るをいふ 祖徠辨名

○謹とは心に恐ま
ありて 事の誤り
あからんやうにす
るなり 童子訓

○人道も 只忠信小

あり 誠なるがされば

物おし 二程金書

○内その心を 正ふ

し 外其行ひを 脩

む 虞溥

○言忠信あり 行ひ

篤敬あり 念りをこ

らし 欲をふさぎ

過を改む これ身を

脩るの 要あり 學的

第二章

○師の教へをうけ
 學問をる法を善
 をこのみ行ふをもつ
 と志とすべし

童子訓

○田あまどえ 耕さ
 ざれど 倉廩むなし

書阿れども 教へさ

まバ 子孫愚かり

白樂天 勸學文

○玉琢のざれど 器

を成さば 人學ばさ

れバ 道を知らず

礼記

○凡そ子弟ハ 早く

起て晏
 く眠らん
 ことを要
 するべし
童蒙須知
 ○常に聲
 を低ふし



氣を下し
 語言詳
 ろに緩ふするを
 要するべし
同上
 ○喧鬭争のところに
 近くづらば
同上

○女も人に従ふも
のなり 幼ふしてハ
父兄に従ひ 嫁し
ては 夫小従ふ 夫
死しては 子に従ふ

禮記

第三章

○學問も まづ志を
立つるを以て 本

とす 大和俗訓

○道近しと 雖ども
行のざれど 至らず

事小ありと 雖と

と 為とざるは 成

らず 韓詩外傳

○志ハ以て 言を發

し 言ハ以て 信を

出し 信を以て 志

を立川 左傳

○志は一日も 墜と

づ 加らず 心を一時

と 放つべからば 劍掃

○言語を 慎し 妄

小發せざるハ 仁を

求むる乃

端あり

學的

○ 跬歩を

積まざれ

る 以て千里に

至

る 小流を

積

由ざれむ

以て江河

を 成さることあり

荀子

第四章

○ 人を貴みと 己を

賤み 人を先ふして

己を後にさ

禮記

○ 前の人を 長短を

説くを 休めよ 自

家の背後小 眼あり

呂新吾續小兒語

○蓬 麻の中に 生

ざれど 扶けずして

直荀子

○聲は 小として

聞へざるハなく 行

ひは 隠るとして

形ハまざる同上

○善つまざれど 名

を成易經を易經不足らず

○多く聞て 其善か

る者を選択
みて之
に従ふ 論語
○博く學
ぶの道と
見ると



聞との二川を

法とむ 大和俗訓

○高きに升るハか
ならず 下よりさ
退きに 陟るハ必だ
邇よりす 尚書

○功を虚を以て成
 をべからず名ハ偽
 りを以て立つべら
 らん

班固

○書をよみ學問を
 れむ聞見の智を

日々に進心されど
 も知まざる事を
 行さざれば徳行を
 日々ふをくれて進
 まず

大和俗訓

○古今書をよむ人

多けきと 道を

知る人 稀あるハ

書をよみたるのこ

にて 思わざばあ

り 初學訓

○奢る者ハ 憂ひ多

く 儉ある者ハ 福

多し 化書

○好んで 善を行ふ

ものも 天たさくる

に 福をえつてす 桓寛

○我のため 便り

よたことさ はかる
とみお人小 害あり
り 大和俗訓

第五章

○病を口より入り
禍ハ口より出づ

故に君子を 言語を
つゝみ了 飲食

を 節にを 要覽

○言語 自らほしい
まゝなれど 人と怨
みをあす 常安民

○一言もつて 知と

かゝ 一言を法と

不知とあはれ 言慎ま

ざるべしあらば

論語

○言小儉に 以て

氣を養ふべし 私

了儉ふし 以て福を

獲るる也 譚子

○人を ほ免過きも

諂小近く 又人を

知らざる能 あやま

ち阿り 不智といふ

べー凡そ人を褒
貶さるること 慎むべ

初學訓

○人情りて 侈をバ
貧し 法とめと 儉
かまむ富む 管子

○怒とは 奢りを押
へて 慾をほしいゆ
ゝに せずして こ
らゆ多なる 家道訓

○怒とを 我の心
て 人の心を 推は

かまて 人の好むこと
 とる 施こく 嫌ふ
 ことは 施こさず 同上
 ○孝子は 高き小登
 らば 危きをふまず
 とて 父母の遺體を

敬ふ故小 跬歩も
 其親を わされざる
 あり 大戴礼記

學小 新撰修身書卷一終

小 新撰修身書卷一終

明治十五年五月三十日版權免許
同 十六年十月十二日再板御届
同 年十二月廿五日刻成發兌

定價金六錢

編纂者

貞都府子民

平井義直

上京區第廿八組蛸茶師町十一番戶

出版人

貞都府子民

杉本甚介

下京區第五組彌慶町四十六番戶

專賣

大坂

柳魚喜兵衛

鳥取

横山安次郎

島根

園山喜三右門

島根

川岡清助

書肆

小學
新撰修身書

安原時太郎閱
平井義直編纂

二

X110.1
182
2